

2003年3月27日 第1回横浜中央地区歯科病診連携研究会

# 口腔カンジダ症に対する イトラコナゾールの使用経験

横浜船員保険病院 歯科口腔外科

露木 良治

# はじめに

カンジダ菌は口腔・腸管・膣粘膜・皮膚に常在する真菌ですが、宿主の抵抗性や免疫機能が低下したとき、日和見感染あるいは菌交代現象として真菌感染症である口腔カンジダ症を引き起こします。

また、口腔乾燥症の合併症として、口腔カンジダ症が発症することもあります。

口腔カンジダ症の典型的な臨床像は、容易に剥離する白い偽膜とされていますが、偽膜を伴わないものも多く、診断に苦慮することもあります。

# 症状

## 自覚症状

自発痛、接触痛、違和感、味覚障害など。

## 視診

白斑、白苔、発赤、紅斑、腫脹、びらん、潰瘍など。発症初期には、紅斑と腫脹を呈し、進展すると白斑が散在するようになり、やがて融合して白苔を形成します。

## 好発部位

舌（約60%）が最も多く、次いで口蓋（約20%）であり、頬、歯肉、口唇がいずれも約7%です。

# 診断

## 確定診断

菌の存在証明が必要となりますので、患部から**細菌培養**を行います。

## 組織生検材料

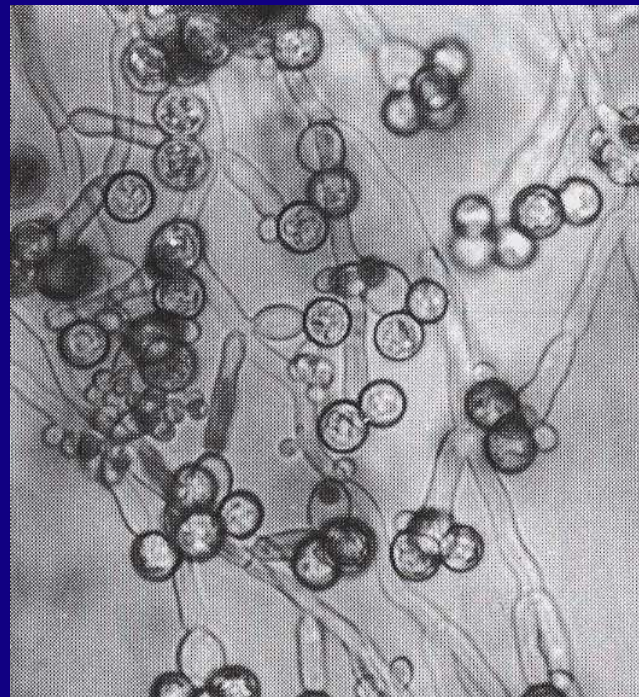
組織内菌要素を**PAS染色**で確認します。

## 血液検査

**カンジダ抗原**や **$\beta$ -D-グルカン**を測定します。  
最近では、**カンジダマンナン抗原**の測定も行われることがあります。

# 細菌培養の注意点

カンジダ菌は、特殊な培地で培養されますので、検査を依頼する施設に対しては、カンジダ菌の検出が必要な旨を伝える必要があります。



# 常在菌叢に影響を及ぼす因子

## 1. 外的因子

- ウイルス感染
- 医療操作
- 抗菌薬
- 手術
- 気道異物（気管挿管、胃管チューブを含む）

## 2. 内的因子

- 高齢化（換気能の低下、気道の自浄能の低下、唾液分泌量の減少など）
- 局所及び全身的免疫低下
- 基礎疾患

# 唾液流量が減少すると

唾液による自浄作用と粘膜の潤滑作用とが損なわれ、常在菌叢の変化も起こります。

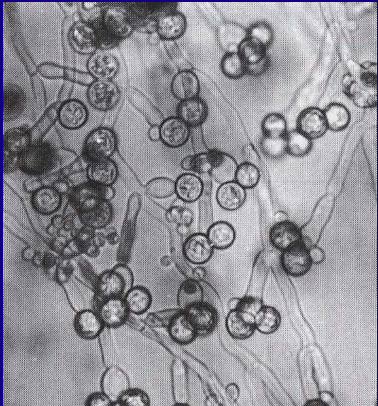


レンサ球菌

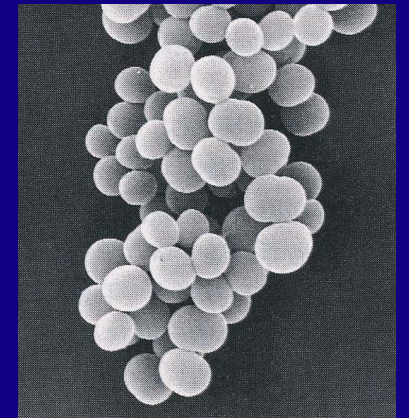
1. 唾液流量の減少

2. レンサ球菌が減少

3. カンジダ菌、ブドウ球菌など、他の菌が増加  
(ブドウ球菌はレンサ球菌と本来拮抗する)



カンジダ菌



ブドウ球菌

# 治療

治療にあたっては、抗生物質の連用に原因が有るならば、薬剤の中止あるいは減量をはかります。全身衰弱や抵抗力の減少に原因が有る場合は、栄養補給などの全身状態への加療も必要となります。

患部に対しては、含嗽、あるいは薬物塗布を行い、必要に応じて内服薬を用います。

重症例には、抗真菌薬の点滴静注を行うこともあります。



# 経口抗真菌薬

一般名	口腔カンジダ症 に対する適応	商品名
イトラコナゾール	●	イトリゾール (カプセル剤)
ミコナゾール	●	フロリードゲル (ゲル経口用)
フルコナゾール	△ 消化管カンジダ症	ジフルカン (カプセル剤／注射剤)
アムホテリシンB	△ 消化管カンジダ症	ファンギゾン／ハリゾン (シロップ／錠剤／注射剤)

# 経口抗真菌薬



イトリゾール



ジフルカン

ファンギゾン  
シロップ

フロリード  
ジェル

# 含嗽薬

一般名	細菌	真菌	ウイルス	商品名
ポピドンヨード液	○	●	○	イソジンガーグル など
塩化ベンゼトニウム	○	●	×	ネオステリングリーン など
グルコン酸クロルヘキシジン	○	×	×	コンクールFなど
アズレンスルホン酸ナトリウム	×	×	×	アズノールうがい液4% など



イソジンガーグル  
(30倍希釈)

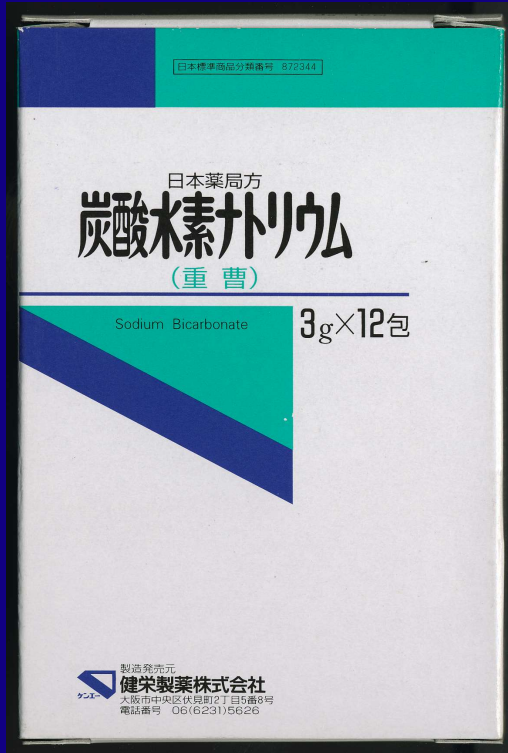
ネオステリングリーン  
(50倍希釈)

# 市販薬

## 炭酸水素ナトリウム（重曹）

1日3包、分3

1回100mlのぬるま湯に溶いて含嗽



リステリン

# 口腔乾燥症に対する口腔ケア



絹水／オーラルウエット  
150ml ¥2800前後



オーラルバランス  
42g ¥1700前後



口腔乾燥症状改善薬  
塩酸セビメリン（エボザック／サリグレン）  
（適応はシェーグレン症候群のみ）

## 人工唾液

人工唾液としてサリベートがありますが、適応はシェーグレン症候群あるいは放射線照射後となっています。

サリベートの特有の味は、冷やすことで使いやすくなります。

## 漢方薬

- ・ 白虎加人参湯 (びゃっこかにんじんとう)
- ・ 麦門冬湯 (ばくもんどうとう) など



# イトリゾール

当科では、2002年11月から、口腔カンジダ症の治療に、トリアゾール系抗真菌薬であるイトラコナゾール（商品名イトリゾール、ヤンセンファーマ社）を用いています。

イトリゾールは、口腔カンジダ症に対する抗真菌薬の中で唯一のカプセル剤です。

本剤の用法は1日1回であり、高齢者にも服用しやすく、コンプライアンスが良好な薬剤です。

# イトリゾールの用法

通常、成人にはイトラコンゾールとして100～200mgを1日1回食直後に経口投与します。

用量は、年齢、症状によって適宜増減します。

当科では、口腔カンジダ症の治療として初回に1日量100mgを1週間投与し、状態に応じて追加投与を行っています。



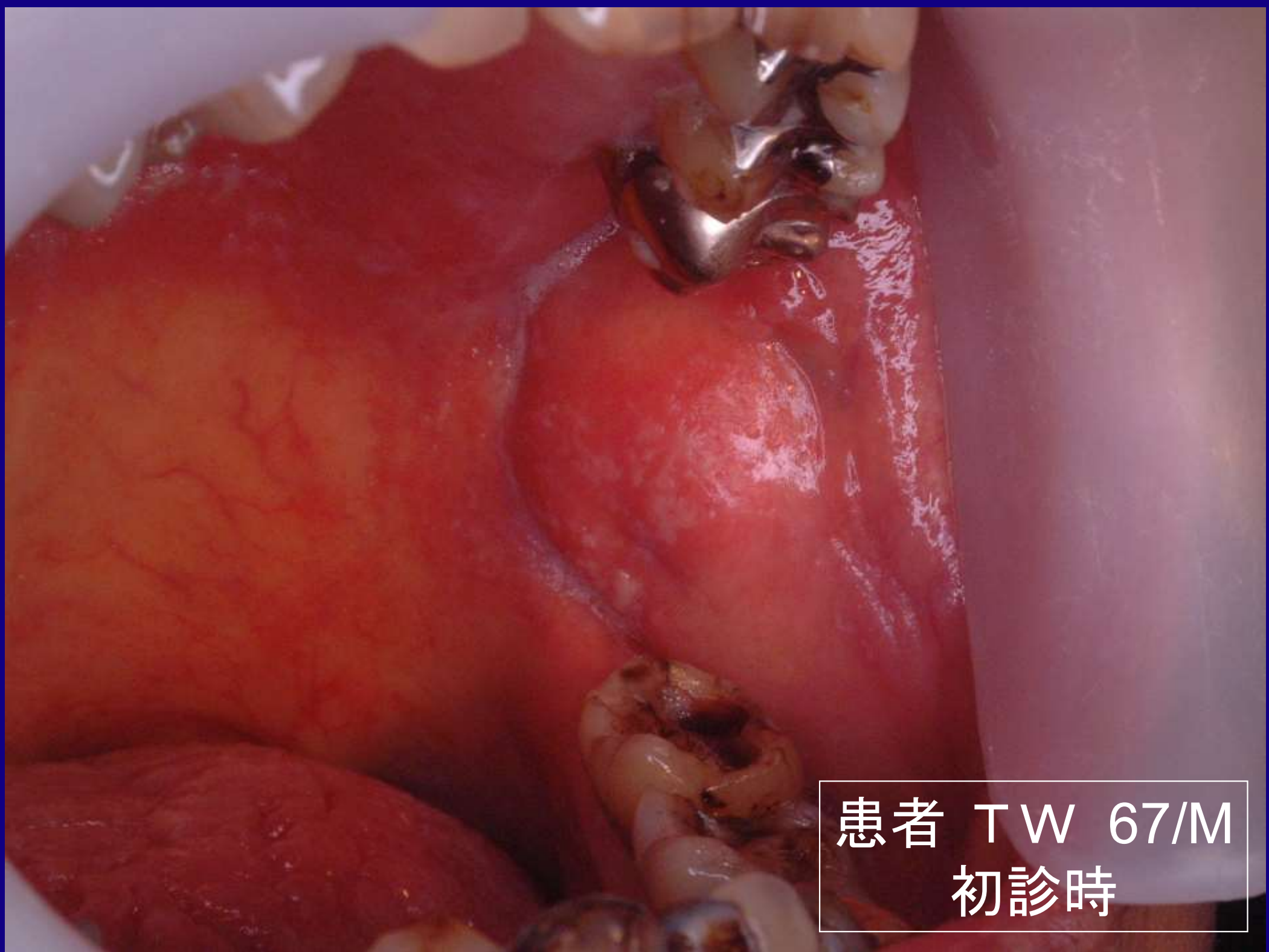
(処方例)

イトリゾール(50mg) 2C、分1、  
7日分

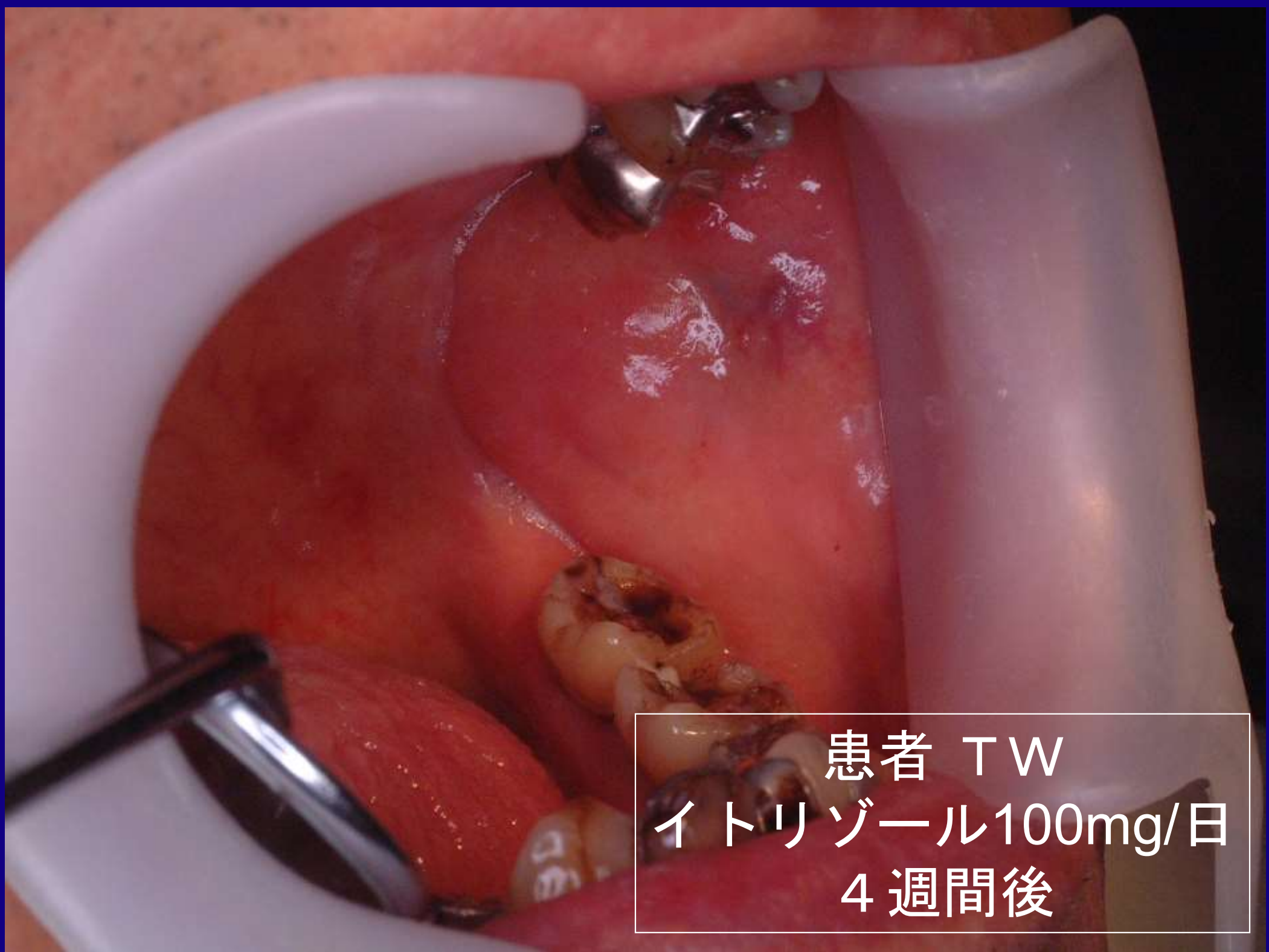
# 症例

# イトリゾールを用いた症例

患者名	年齢	性別	部位	症状改善	白斑	カンジダ	基礎疾患
TO	78	F	舌	8W	—	+	精神病
YS	46	F	舌	3W	+	—	
KH	74	M	舌	4W	+	+	白内障
SU	62	M	舌	4W	—	—	高血圧
AK	83	M	舌	4W	+	+	脳出血
SE	74	M	舌	2W	+	+	高血圧、心筋梗塞
SI	76	M	頬粘膜・舌	2W	+	+	高血圧、喘息
TW	67	M	頬粘膜	6W	+	+	
YS	82	F	口蓋	4W	+	—	高血圧



患者 TW 67/M  
初診時



患者 TW  
イトリゾール100mg/日  
4週間後



患者 KH 74/M  
初診時



イトリゾール100mg/日  
2週間後

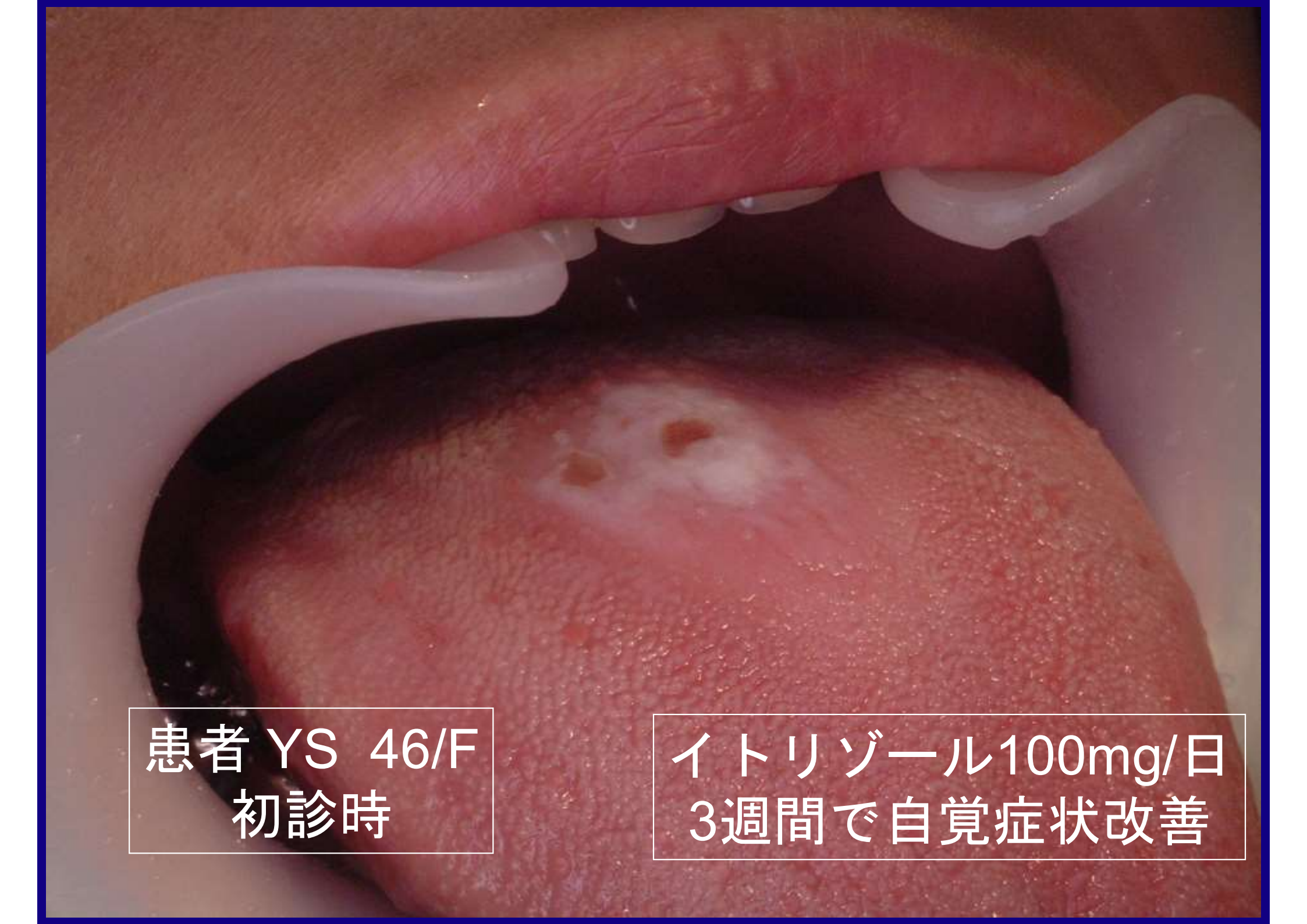


患者 SI 76/M  
初診時



イトリゾール100mg/日  
1週間後





患者 YS 46/F  
初診時

イトリゾール100mg/日  
3週間で自覚症状改善

患者 SE 74/M  
初診時

イトリゾール100mg/日  
2週間で自覚症状改善

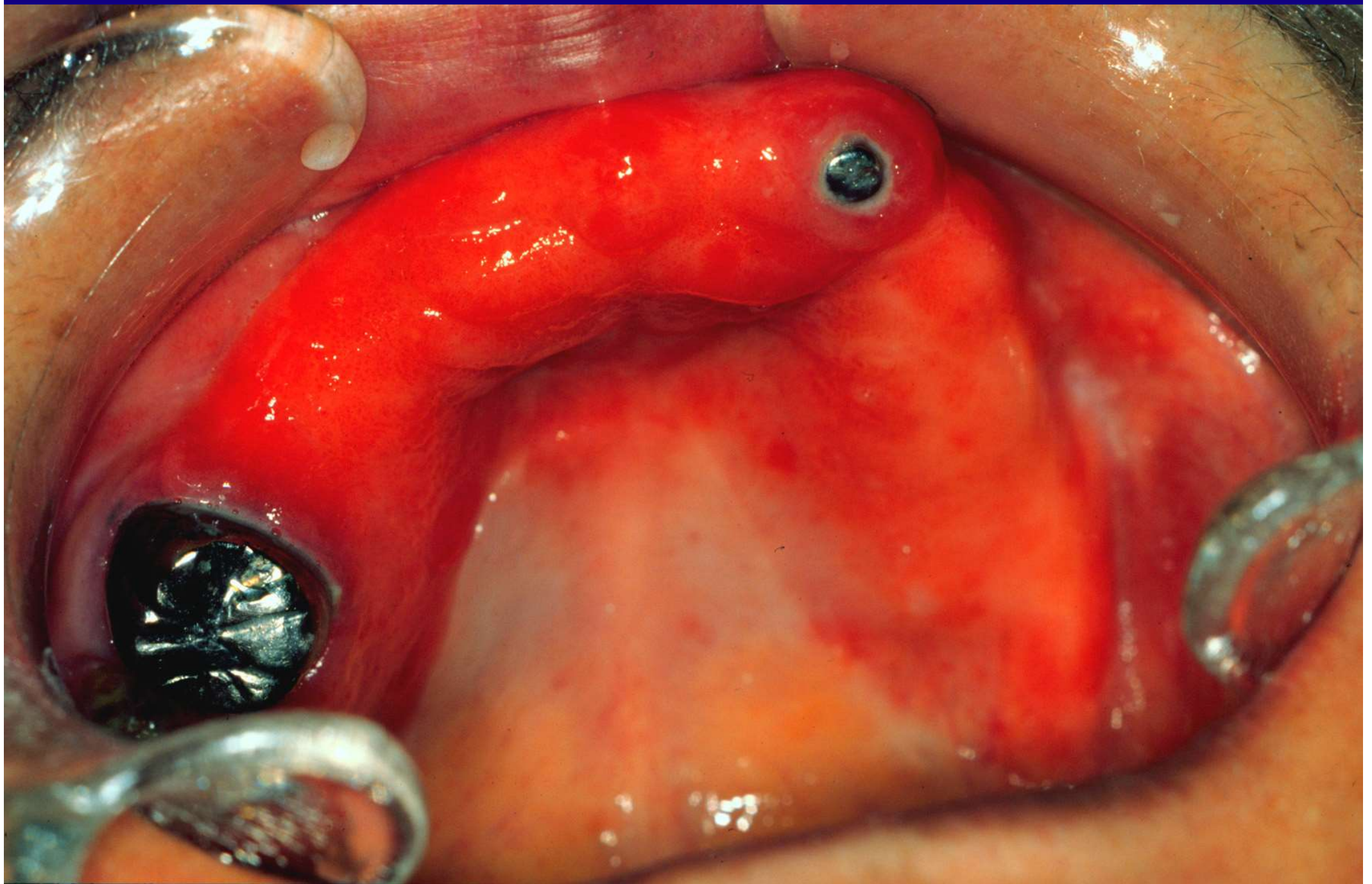




ステロイド内服中に発症した口腔カンジダ症



ステロイド内服中に発症した口腔カンジダ症



カンジダが関与していた義歯性口内炎



カンジダが関与していた舌痛症



初診時に扁平苔癬を疑った口腔カンジダ症

# まとめ

1. 当科を受診した口腔カンジダ症 9 例をイトリゾールで治療し、全例において良好な結果を得ました。
2. 患者さんの平均年齢は、71.3歳でした。
3. 部位別では、舌が6例、頬粘膜2例、口蓋1例でした。
4. 平均4.1週間で自覚症状の改善を得ました。
5. 白色病変を認めない症例が2例ありました。
6. 難治性の口腔粘膜疾患では、カンジダ菌の関与を疑うことの必要性が示唆されました。